

近隣生活と住民組織の地域的特性

——兵庫県 6 地域の比較研究（その 1）——

倉 田 和 四 生

〔1〕 研究枠組

はじめに

- 〔1〕 研究枠組
- 〔2〕 近隣つき合いの型
- 〔3〕 地域住民組織への加入と活動参加
- 〔4〕 自治会に対する態度
- 〔5〕 地域の特性

はじめに

兵庫県は六つの地域（阪神・西播磨・東播磨・丹波・但馬・淡路）から構成されている。勿論、兵庫県が発足してからすでに100年を経過しており、その間に交通、産業、制度の近代化が進行してきたところから、旧藩時代の地域の文化的・社会的特性は次第に稀薄に成り、一体的な地域としての「県」が形成されて来たものの、なお、依然として、六つの地域はそれぞれ何程か地域としての特性を保持しつづけているものと考えられる。

ところでこれらの地域について、文化的、社会的特性の研究は個別的にはある程度まで成されているものの、共通の項目について、六つの地区の比較研究を行なった成果は必ずしも数多く生み出されているわけではない。

しかしながら、行政を効率的に行なっていくためにもこれらの地域を比較的に研究し、その社会的特性を適確に把握しておくことは極めて重要なことであろう。

そこでわれわれは、「社会構造」（集団の構造）、「近隣関係」、「集団参加」、「問題解決のルート」について地域別の特性を明らかにすることを試みた。

（1） 調査の方法と課題

1) 社会生活の三つのレベル

地域の社会生活を明らかにするため、三つのレベルを区別したい。一つは個人の生活にかかわる「社会関係」のレベル、二つは「集団」のレベル、三つは集団が構造化された「社会」である。これら三つのレベルに応じて「近隣関係」、「集団参加と活動」、「地域の社会構造」が区別される。この三点が研究の焦点と成る。

そこで具体的には

- 1) 近隣生活の実態（社会関係のレベル）
- 2) 地域集団への参加と活動（社会集団のレベル）
- 3) 地域生活の課題解決のルート（社会関係のレベル）
- 4) 地域の社会構造（社会のレベル）
- 5) 地域の特性

を明らかにしたい。

調査の方法としては

- 1) 聞き取り
- 2) アンケート調査

を併用した。

2) 調査の課題

1) 近隣生活の実態——は主としてアンケートによって、①望ましい近隣つき合い、②つき合いの実態、③交際の相手、④交際の範囲などについて質問した。

2) 地域集団への参加と活動——についてはアンケートで参加集団を問い、また自治会・部落会の必要性を質問したが、併せて地区の主要な集団の活動状況について聞き取りを行なった。

3) 課題解決の仕方——についてはアンケートの中で、①頼む用件、②頼む相手、③仲介の有無、④お礼、⑤投票、などについて質問している。

4) 聞取りによって主な地域集団の構造と活動を調べ、それらの関連を検討し、地域社会の構造を明らかにする。

最後にこれらの資料を地域毎に比較することによって地域の特性を明らかにしたい。

この調査では ①「地域の社会構造」、②「近隣生活」、③「団体加入と活動」、④「地域生活に関する問題解決のルート」を比較検討（本稿では②、③のみ扱う）したいと考えている。

この研究の目的は近隣関係と住民組織の地域比較であるから、これらについて研究枠組を定めておきたい。

(2) 近隣関係

1) 概念規定

これまでシカゴ学派をはじめ、多くの学徒が「近隣」について研究して来た¹⁾。例えば、アメリカで最もよく読まれている都市社会学の教科書といわれる『都市社会学』Urban Society、のなかでギストとハルバートは「近隣」の概念について、エコロジー、社会心理学および文化の観点からも規定することが出来るが、社会学的には「近接して居住する個人や家族員が相互に接触することによって生まれる関係²⁾」と規定することが出来ると述べている。

次に、近隣関係を体系的に考察しているのはプリンストン大学の S. ケラーである。ケラーは近隣関係 (neighboring) を援助者としての隣人の活動であると規定し、近隣社会 (neighborhood)

と区別している³⁾。

次にニューヨークの都心部と郊外の近隣関係についてユニークな比較研究をおこなったブルックリン・カレッジのファーバー教授もまた近隣関係の研究において大きな貢献を行なっている。彼女はこの比較研究において「都心からの距離が増加するにつれて近隣関係は増大する」という仮説を提示した⁴⁾。

この研究の中で、彼女は近隣関係に影響する要因として、①性、②年齢、③結婚関係、④教育、⑤居住期間、⑥国民性、⑦成長期のコミュニティの大きさ、をあげている。

日本における都市の近隣の研究のなかで、大橋薫は neighboring を「血縁関係とか親方・子方関係とか職場関係とか或は知人関係とかではなく、文字通り、居住地の近接していること、すなわち地縁関係を契機として行われる人々のつき合いをいう⁵⁾」と規定している。

これらの規定に準拠して、ここでは近隣関係を「住居の近隣性を契機にして展開する人間活動」と規定しておくたい。

2) 機能分類

近隣活動の機能には数多くのものがみられるが、そのなかで特に重要なものを調査分析の枠組

	(手段的)	(充足的)
実質的	相互扶助 (3)	親睦 (4)
形式的	社交 (朝夕のあいさつ) (1)	情報交換 (訪問・世間話) (2)

- 1) ウェーバー 余宮道徳訳「都市の概念と諸範疇」 鈴木広訳編『都市化の社会学』誠信書房 昭和40年 4頁
 ゾンバルト 吉田裕訳「都市的居住——都市の概念」 鈴木広訳編『都市化の社会学』誠信書房 昭和40年 41頁
 ジンメル 松本通晴訳「大都市と心的生活」 鈴木広訳編『都市化の社会学』誠信書房 昭和40年 102頁
 パーク 大道安次郎・倉田和四生訳『都市』鹿島出版社 昭和47年 7頁～9頁
 ワース 高橋勇悦訳「生活様式としてのアーバニズム」 鈴木広訳編『都市化の社会学』誠信書房 昭和40年 第6章
 アクセルロッド 鈴木広訳「都市構造と集団参加」 鈴木広訳編『都市化の社会学』誠信書房 昭和40年 212頁
- 2) N. P. Gist and L. A. Halbert, *Urban Society*, 1950, P. 284, pp. 284—285.
- 3) S. Keller, *The Urban Neighborhood*, 1968, S. Keller, "Neighborhood Concepts in Sociological Perspective" in *Surviving the city*, ed. by T. Gabree, 1973.
- 4) S. F. Fava, "Concept in Neighborhood: New York City and Suburban County," in Dobriner ed., *The Suburban Community*, 1958, p. 126.
- 5) 大橋薫「大都市における Neighboring の一研究」社会学評論 16 1954 26頁

にしておこう。

ここでとりあげる機能は次の四つである。すなわち、①社交的機能、②情報交換の機能、③相互扶助の機能、④親睦の機能の四つである。これは「手段的一充足的」と「形式的一実質的」の二つの軸を組合せた四つのボックスとして作られる⁶⁾。

3) 作業仮説

近隣活動の規定要因に関して、これまで為された論議を作業仮説として次のようにまとめた⁷⁾。

- ① 年齢別にみると、近隣関係は若い方が親密なつき合いが多い (大橋薫・ファーバー)⁸⁾。
- ② 子供の有無でみると、近隣関係は子供のある家族の方が親密なつき合いが多い (大橋薫)⁸⁾。
- ③ 住宅の所有関係別にみると、近隣関係は借家に多く、間借では少ない (大橋薫)⁸⁾。
- ④ 学歴別にみると、近隣関係は低学歴の人に多い (大橋薫)⁸⁾。
- ⑤ 生活程度別にみると、近隣関係は収入の少ない人に多い (大橋薫)⁸⁾。
- ⑥ 居住期間別にみると、近隣関係は居住期間の長い人に多くみられる (大橋薫、スミス・フォーム・ストーン)^{8,9)}。
- ⑦ 都心と郊外を比較すると、近隣関係は都心に少なく、郊外に多い (ファーバー)⁴⁾。
- ⑧ 団体への参加別にみると、近隣関係は多くの団体に参加している人の方が多い (大橋

地域住民組織の機能

A	消 防 団 J C 青 年 団 商 店 会 農協・漁協	G	自治会連合会 政治家の後援会
	婦 人 会 老 人 会 スポーツ・文化・ 趣味の会		子 供 会 自 治 会 宗 教 団 体
L		I	

薫)⁸⁾。

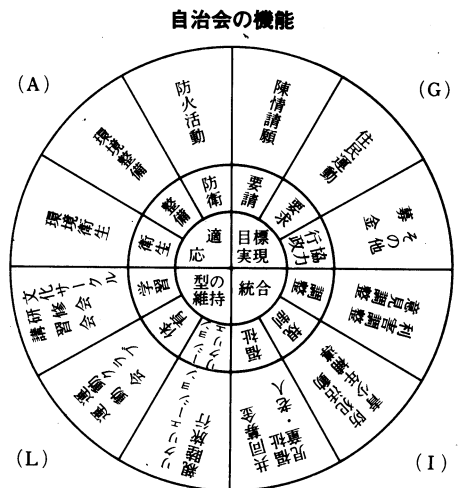
(3) 地域住民組織の性格

1) 地域住民組織の種類

地域住民組織には多様なものがみられる。例えば部落会・町内会・自治会、消防団、農協、商工会・商店会、婦人会、老人会、子供会、青年団、社会奉仕の会などである¹⁰⁾。これらの組織はほとんどの地域に普遍的に見られるが、加入の割合からみるといろいろの違いがみられる筈である。この違いから地域の特性をひき出すことが出来るであろう。

2) 部落会・町内会・自治会

これらの地域住民自治組織の中で最も中枢的な位置を占めるものは部落会・町内会・自治会である。これらの組織は村・町だけでなく大都市においても等しくみられるところである。この組織は、本来、その地域の住民自治を遂行するための中核的な組織であった。そこでこの組織は世帯を単位とする全員加入の包括的な集団となっている。戦前と戦中においては法制化された団体であったが、戦後は地域の民主化が遂行されたため廃止されたが、間もなく親睦団体として復活した。本来、この組織は自治の組織であるとともに、国家・行



- 6) T. パーソンス 倉田和四生訳『社会システムの構造と変化』創文社 昭和59年
- 7) 倉田和四生『都市コミュニティ論』法律文化社 昭和60年 87頁—88頁
- 8) 大橋薫『都市生活の社会学』第5章「都市の近隣社会」川島書店 1973年
- 9) J. Smith, W. H. Form, G. P. Stone, "Local Intimacy in a Middle Size City," American Journal of Sociology, 60 (November 1954) p. 279.
- 10) 神戸都市問題研究所編『地域住民組織の実態分析』勁草書房 1980年 倉田和四生『都市のコミュニティ論』法律文化社 昭和60年 第4章 第5章

政の末端機構として作用していたが、戦後においても単なる親睦団体にとどまることなく、行政の下請的な協力を行なっている。このことは東京都区部をはじめ10大都市においても等しく見られるところである。

またこの団体は地域における住民自治活動の中核としての意味をもっているところから、青年団、婦人会、老人会、子供会などについても、これを傘下におさめ、育成していく働きを持っている。

自治会の機能

- ①環境適応(A)
- ②目標実現(G)
- ③学習・レクリエーション(L)
- ④統合(I)

3) 地域社会の構造

したがって地域社会の構造は、

- ① 部落会・町内会・自治会がどのような機能果しているか。
- ② 部落会・町内会・自治会が他の住民組織、例えば婦人会、老人会、青年団、消防団とどのような関係にあるか。
- ③ 部落会・町内会・自治会を超える組織化がどのように進められるか。

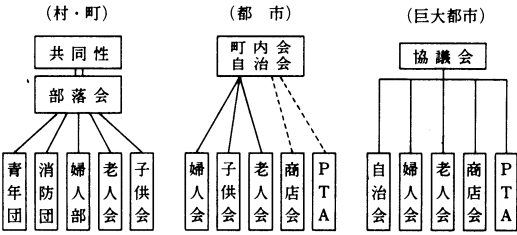
などによって考察することが出来る。

4) 地域の社会構造の変化の方向

都市化の進行にともなって社会の閉鎖性がくずれて流動性が高まることによって地域の社会構造は次第に変化を見せている。村落共同体の共同の契機が失われていくことから住民組織の機能が変化する。ことに自治会の機能がムラの共同体的な基盤を失って機能の重点が変化していく。そこでことに都市部においては他の機能が重要に成り、極端な場合には親睦機能だけの組織となる。

このように地域住民組織の構造は前近代社会に

地域社会の構造の変化の方向



における共同体の累積的な重層構造から、単一機能を担う個別的組織の集まりという形態に変容せざるを得なくなる。この過程の中で部落会・町内会・自治会の機能も変化し、相対的に弱体化して、地域の中核的な意義を失っていく。

この様な状況では地域を組織化するためには、地域内のすべての組織を網羅する協議体が結成されることが必要になってくる。これが例えば「各団体協議会」や「コミュニティ・センター運営委員会」などである。

このように地域の社会構造は部落会・町内会・自治会の独占的な支配から、個別組織の水平的な協議体の形成へと向うであろう。

(4) 調査の方法

アンケート調査と聞き取り調査については以下の通り実施した。

アンケート調査の概要

- 1 調査実施時期—昭和60年2月6日～3月11日
- 2 調査方法—郵送法、ただし催促状は出さず
- 3 調査対象—選挙人名簿に登録されている有権者(世帯主)
- 4 サンプルングの方法—等間隔サンプリング(系統的標本抽出法)
- 5 抽出数および回収数—別紙参照

表1 サンプル数と回収状況

区 分	市 町	神戸市 ①	伊丹市 ②	豊岡市 ③	滝野町 ④	新宮町 ⑤	篠山町 ⑥	津名町 ⑦	合 計
	世帯数	S 55.10 S 60.1	42,584 49,589	51,397 57,255	12,518 13,498	2,238 2,307	4,235 4,360	6,275 6,461	4,901 5,006
サンプル数		700	1,000	600	400	400	500	400	4,000
回 収 数		248	413	303	214	206	351	191	1,926
回 収 率%		35.4	41.3	50.5	53.5	51.5	70.2	47.8	48.2

調査フロー

アンケート調査

調査作業手順	調査推進体制・作業量等
1. 調査条件の設定 調査の対象者、設問事項、調査密度 調査時期・期間 2. 調査対象地域の選定—市区町レベル 3. 調査標本抽出点数の概数把握 4. アンケート用紙の印刷 5. 調査対象地域の市町と協議 調査研究目的等を説明し、協力依頼 6. アンケート調査の日程調整 7. 調査標本の抽出 選挙人名簿 閲覧申請 標本抽出 調査対象者 世帯主 任意標本抽出法 8. 調査票の発送 調査対象者 世帯主の氏名、住所を記録 送付用封筒の宛名書き 資料の封入 送り状（依頼文） アンケート用紙 返信用封筒一切手付き （協会宛） 市町の協力依頼文 調査対象者あて郵送 協会あて返送（郵送） 9. 調査票の回収—回収期間：10日～20日 10. 調査票の集計・分析—コンピューター解析 11. 調査結果のまとめ	「市民意識調査研究会」の設置 アンケート調査実施要領（別紙） 研究会開催 ①神戸市中央区②伊丹市③豊岡市 ④加東郡滝野町⑤揖保郡新宮町 ⑥多紀郡篠山町⑦津名郡津名町 約4,000点 4,100枚 市区町の窓口 ①選管委員会 ⑤企画 ②企画室 ⑥企画室 ③企画調整課 ⑦総務課 ④総務課 調査日時、調査者等 抽出点数（総計4,000点） ① 700点 ② 1,000点 ③ 600点 ④ 400点 ⑤ 400点 ⑥ 500点 ⑦ 400点 抽出作業の時期 ① 3月1日 ② 2月7日 ③ 2月13日 ④ 2月6日 ⑤ 2月14日 ⑥ 1月28日 ⑦ 2月18日 業者に委託 研究会開催 アンケート調査結果 ヒアリング調査結果

〔2〕 近隣つき合いの型

近隣つき合いは地域の生活の中で基礎となるものであるが、村落、町、大都市においてそれぞれ異なったあり方が存在するものと考えられる。

そこで近隣つき合いについていくつかの側面に分けて検討した。

（1）望ましい近隣つき合いの仕方

1) 全体の傾向

一般的に近所つき合の仕方についてみると、「心をうちわって」親しくつき合う人は 24.5%、「節度をもってほどほどに」つき合うのが 73.7%、「近所つき合いなし」が 1% となっている。（これは神戸市で婦人を対象にした調査とくらべると「親しくつき合う」人がかなり少ない¹¹⁾）。

したがって、近所つき合いをしない人はほとんどなく、「ほどほどにつき合い」をする人が圧倒的に多いことがわかる。

2) 地域別

しかしこれを地域別にみると、かなりの相違がみられる。

「心をうちわって」親しくつき合う人が最も多いのは新宮町の 36.6% で、反対に最も少ないのは神戸市の 11.7% である。逆に「ほどほどに」つき合う人の割合が多いのは神戸市中央区の 83.9% で最も少ないのは新宮町の 61.5% である。

また近隣のつき合いを「しない」のが多いのは神戸市中央区の 3% で、滝野町、篠山町、伊丹市などである。

地域別を大雑把にみると、阪神大都市圏の神戸市、伊丹市では「心をうちわって」親しくつき合う人が少なく、地方の市・町では親しくつき合う人の割合が多くなっている。逆に「節度をもってほどほどに」つき合う人は大都市に多く、他の地方の市・町ではいくらか少ない。

したがって、近隣づき合いからみると、他方の市・町には親しいつき合いが多く、神戸市と伊丹市では「ほどほど」のつき合いが多いといえよう。

（2）具体的な近隣つき合い

次に具体的にどのように近隣つき合いを行なっているかについてみると、

1) 全体の傾向

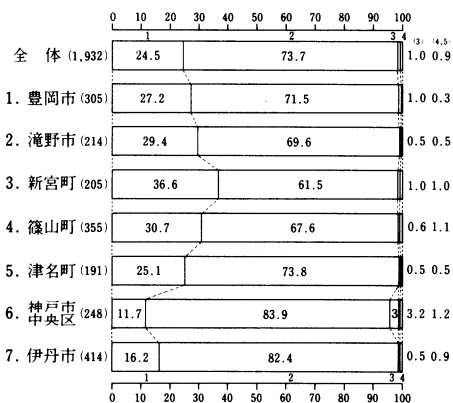
全体では「あいさつ程度」が 53.1%、「親しく訪ね助け合う」が 44.8% となっている。あいさつ程度を加えると殆んどの人が、つき合いをしていると言えよう。

2) 地域別

これを地域別にみると、かなりの差異がみられる。まず神戸市と伊丹市では「あいさつ程度」が約 7 割で「親しく訪ね、助け合う」は伊丹市 32.1%、神戸市は 24.2% にすぎず、さらに神戸市では「顔も知らない」が 3% いる。

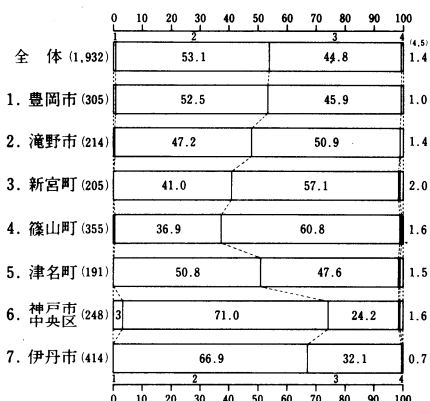
これに反して新宮町と篠山町では「親しく訪ね、

望ましい近隣つき合い



1. 心をうちわって
2. 節度をもってほどほどに
3. 近隣つき合いはしない
- 4.5. 不明・その他

具体的なつき合いの仕方



1. 顔もよく知らない
2. あいさつする程度
3. 助け合う
- 4.5. 不明・その他

具体的なつきあいと居住年数（不明・その他を除く）

表2 全体 居住年数

居住年数 \ 具体的なつきあい	合 計	1 顔も知らない	2 あいさつ程度	3 親しく訪ねる
合 計	1643 100.0	13 0.8	886 53.9	744 45.3
1 明治以前	433 100.0	— —	131 30.3	302 69.7
2 明治時代	161 100.0	1 0.6	75 46.6	85 52.8
3 大正時代	70 100.0	— —	38 54.3	32 45.7
4 昭和1～20年	120 100.0	— —	82 68.3	38 31.7
5 昭和21～30年	155 100.0	1 0.6	83 53.5	71 45.8
6 昭和31～40年	141 100.0	— —	89 63.1	52 36.9
7 昭和41～50年	235 100.0	2 0.9	162 68.9	71 30.2
8 昭和51～55年	156 100.0	2 1.3	102 65.4	52 33.3
9 昭和56年以降	172 100.0	7 4.1	124 72.1	41 23.8

表3 滝野町 居住年数

居住年数 \ 具体的なつきあい	合 計	1 顔も知らない	2 あいさつ程度	3 親しく訪ねる
合 計	188 100.0	1 0.5	89 47.3	98 52.1
1 明治以前	55 100.0	— —	15 27.3	40 72.7
2 明治時代	26 100.0	— —	11 42.3	15 57.7
3 大正時代	14 100.0	— —	8 57.1	6 42.9
4 昭和1～20年	12 100.0	— —	8 66.7	4 33.3
5 昭和21～30年	13 100.0	— —	6 46.2	7 53.8
6 昭和31～40年	12 100.0	— —	8 66.7	4 33.3
7 昭和41～50年	19 100.0	— —	11 57.9	8 42.1
8 昭和51～55年	19 100.0	1 5.3	9 47.4	9 47.4
9 昭和56年以降	18 100.0	— —	13 72.2	5 27.8

表4 豊岡市 居住年数

居住年数 \ 具体的なつきあい	合 計	1 顔も知らない	2 あいさつ程度	3 親しく訪ねる
合 計	263 100.0	2 0.8	139 52.9	122 46.4
1 明治以前	80 100.0	— —	26 32.5	54 67.5
2 明治時代	21 100.0	1 4.8	13 61.9	7 33.3
3 大正時代	14 100.0	— —	10 71.4	4 28.6
4 昭和1～20年	24 100.0	— —	14 58.3	10 41.7
5 昭和21～30年	16 100.0	— —	6 37.5	10 62.5
6 昭和31～40年	22 100.0	— —	13 59.1	9 40.9
7 昭和41～50年	44 100.0	— —	26 59.1	18 40.9
8 昭和51～55年	24 100.0	— —	17 70.8	7 29.2
9 昭和56年以降	18 100.0	1 5.6	14 77.8	3 16.7

表5 新宮町 居住年数

居住年数 \ 具体的なつきあい	合 計	1 顔も知らない	2 あいさつ程度	3 親しく訪ねる
合 計	175 100.0	— —	74 42.3	101 57.7
1 明治以前	76 100.0	— —	20 26.3	56 73.7
2 明治時代	19 100.0	— —	8 42.1	11 57.9
3 大正時代	10 100.0	— —	5 50.0	5 50.0
4 昭和1～20年	8 100.0	— —	3 37.5	5 62.5
5 昭和21～30年	14 100.0	— —	6 42.9	8 57.1
6 昭和31～40年	10 100.0	— —	5 50.0	5 50.0
7 昭和41～50年	21 100.0	— —	15 71.4	6 28.6
8 昭和51～55年	8 100.0	— —	6 75.0	2 25.0
9 昭和56年以降	9 100.0	— —	6 66.7	3 33.3

具体的なつきあいと居住年数（不明・その他を除く）

表6 篠山町 居住年数

居住年数 \ 具体的なつきあい	合 計	1 顔も知らない	2 あいさつ程度	3 親しく訪ねる
合 計	291 100.0	2 0.7	110 37.8	179 61.5
1 明治以前	133 100.0	— —	26 19.5	107 80.5
2 明治時代	43 100.0	— —	19 44.2	24 55.8
3 大正時代	16 100.0	— —	8 50.0	8 50.0
4 昭和1～20年	19 100.0	— —	10 52.6	9 47.4
5 昭和21～30年	19 100.0	1 5.3	9 47.4	9 47.4
6 昭和31～40年	14 100.0	— —	6 42.9	8 57.1
7 昭和41～50年	17 100.0	— —	11 64.7	6 35.3
8 昭和51～55年	11 100.0	— —	7 63.6	4 36.4
9 昭和56年以降	19 100.0	1 5.3	14 73.7	4 21.1

表7 神戸市中央区 居住年数

居住年数 \ 具体的なつきあい	合 計	1 顔も知らない	2 あいさつ程度	3 親しく訪ねる
合 計	211 100.0	7 3.3	152 72.0	52 24.6
1 明治以前	7 100.0	— —	6 85.7	1 14.3
2 明治時代	6 100.0	— —	4 66.7	2 33.3
3 大正時代	5 100.0	— —	2 40.0	3 60.0
4 昭和1～20年	27 100.0	— —	25 92.6	2 7.4
5 昭和21～30年	42 100.0	— —	26 61.9	16 38.1
6 昭和31～40年	28 100.0	— —	21 75.0	7 25.0
7 昭和41～50年	41 100.0	2 4.9	32 78.0	7 17.1
8 昭和51～55年	18 100.0	1 5.6	12 66.7	5 27.8
9 昭和56年以降	37 100.0	4 10.8	24 64.9	9 24.3

表8 津名町 居住年数

居住年数 \ 具体的なつきあい	合 計	1 顔も知らない	2 あいさつ程度	3 親しく訪ねる
合 計	159 100.0	— —	81 50.9	78 49.1
1 明治以前	52 100.0	— —	23 44.2	29 55.8
2 明治時代	39 100.0	— —	18 46.2	21 53.8
3 大正時代	4 100.0	— —	2 50.0	2 50.0
4 昭和1～20年	11 100.0	— —	6 54.5	5 45.5
5 昭和21～30年	12 100.0	— —	6 50.0	6 50.0
6 昭和31～40年	12 100.0	— —	6 50.0	6 50.0
7 昭和41～50年	13 100.0	— —	9 69.2	4 30.8
8 昭和51～55年	8 100.0	— —	4 50.0	4 50.0
9 昭和56年以降	8 100.0	— —	7 87.5	1 12.5

表9 伊丹市 居住年数

居住年数 \ 具体的なつきあい	合 計	1 顔も知らない	2 あいさつ程度	3 親しく訪ねる
合 計	356 100.0	1 0.3	241 67.7	114 32.0
1 明治以前	30 100.0	— —	15 50.0	15 50.0
2 明治時代	7 100.0	— —	2 28.6	5 71.4
3 大正時代	7 100.0	— —	3 42.9	4 57.1
4 昭和1～20年	19 100.0	— —	16 84.2	3 15.8
5 昭和21～30年	39 100.0	— —	24 61.5	15 38.5
6 昭和31～40年	43 100.0	— —	30 69.8	13 30.2
7 昭和41～50年	80 100.0	— —	58 72.5	22 27.5
8 昭和51～55年	68 100.0	— —	47 69.1	21 30.9
9 昭和56年以降	63 100.0	1 1.6	46 73.0	16 25.4

助け合う」が 57.1%，60.8%で、「あいさつ程度」は 41.0%と 36.9%と少ない。

豊岡市（52.5%），滝野町（47.2%），津名町（50.8%）はいずれもほとんど同じ値である。

3）居住年数別（表2—9）

近隣のつき合いの仕方を居住年数別にみると、居住年数の長い人ほど「親しく訪ね合う」割合が多く、56年以降の新しい人の場合にはわずか23.8%にすぎない。

各町村の場合にも同じ傾向がみられる。

4）住居の所有形態

住居の所有形態別にみると、「親しく訪ね合う」は「持家」、「間貸・同居」、「公舎・社宅」に多く、「借家」では少なく成っている。

表10 全体 住宅の所有形態

具体的な つき合い 住宅 の種類	合 計	1 顔も知ら ない	2 あいさつ 程度	3 親しく 訪ねる
合 計	1653 100.0	13 0.8	890 53.8	750 45.4
1 持 家	1302 100.0	2 0.2	667 51.2	633 48.6
2 公営借家	98 100.0	3 3.1	73 74.5	22 22.4
3 民営借家	167 100.0	5 3.0	105 62.9	57 34.1
4 公舎・社宅	69 100.0	1 1.4	35 50.7	33 47.8
5 間貸・同居	4 100.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0
6 そ の 他	13 100.0	1 7.7	9 69.2	3 23.1

5）住宅の種類別

住宅の種類別にみると、最も親しいつき合いは「一戸建」（48.3%）で、次は「木造集合住宅」

表11 全体 住居の種類

具体的な つき合い 住宅 の種類	合 計	1 顔も知ら ない	2 あいさつ 程度	3 親しく 訪ねる
1 一 戸 建	1286 100.0	2 0.2	663 51.6	621 48.3
2 木造集合住宅	138 100.0	2 1.4	81 58.7	55 39.9
3 鉄筋集合住宅	194 100.0	8 4.1	123 63.4	63 32.5
4 そ の 他	23 100.0	— —	19 82.6	4 17.4

（39.9%），最も少ないのが「鉄筋の集合住宅」（32.5%）である。

6）職業別

職業別にみると、「親しく訪ね合う」が最も多いのは「農林漁業」（67.8%）で、第2位は「運輸・通信・建設・その他」（47.0%），第3位が「自営業」（45.7%）と成っており、この傾向は妻の場合にも同様である。

表12 全体 職業（夫）

具体的な つき合い 職 業	合 計	1 顔も知ら ない	2 あいさつ 程度	3 親しく 訪ねる
合 計	1279 100.0	8 0.6	707 55.3	564 44.1
1 専門・管理・ 経 営 者	249 100.0	2 0.8	157 63.1	90 36.1
2 事 務	172 100.0	2 1.2	109 63.4	61 35.5
3 販売・サービス	147 100.0	— —	84 57.1	63 42.9
4 自 営 業	208 100.0	1 0.5	112 53.8	95 45.7
5 運輸・通信・ 建設・その他	270 100.0	3 1.1	140 51.9	127 47.0
6 農 林 漁 業	87 100.0	— —	28 32.2	59 67.8
7 そ の 他	146 100.0	— —	77 52.7	69 47.3

7）年齢

年齢別にみると、20歳未満は極めて少ないので

表13 年齢

具体的な つき合い 年 齢	合 計	1 顔も知ら ない	2 あいさつ 程度	3 親しく 訪ねる
1 20歳未満	3 100.0	— —	— —	3 100.0
2 20～29歳	39 100.0	1 2.6	30 76.9	8 20.5
3 30～39歳	263 100.0	2 0.8	170 64.6	91 34.6
4 40～49歳	379 100.0	3 0.8	221 58.3	155 40.9
5 50～59歳	433 100.0	2 0.5	220 50.8	211 48.7
6 60～69歳	284 100.0	3 1.1	117 41.2	164 57.7
7 70歳以上	110 100.0	— —	53 48.2	57 51.8

これを除外すると、「親しいつき合い」は年齢にも相関しており、60歳～70歳以上が最も多い。

これも先にあげた作業仮説の(1)とは相違している。

8) 世帯構成

世帯構成との関係でみると、「3組夫婦」が最も親しいつき合いをしており、これについて「2組夫婦で上が世帯主」の場合である。

表14 全体 住宅の所有形態

世帯構成	具体的なつき合い	合 計	1 顔も知らない	2 あいさつ程度	3 親しく訪ねる
合 計		1503 100.0	11 0.7	809 53.8	683 45.4
1 1組の夫婦と未婚の子供		1036 100.0	10 1.0	607 58.6	419 40.4
2 2組の夫婦(若い方が世帯主)		287 100.0	1 0.3	136 47.4	150 52.3
3 2組の夫婦(年上が世帯主)		149 100.0	— —	51 34.2	98 65.8
4 3組の夫婦		20 100.0	— —	6 30.0	14 70.0
5 それ以外		11 100.0	— —	9 81.8	2 18.2

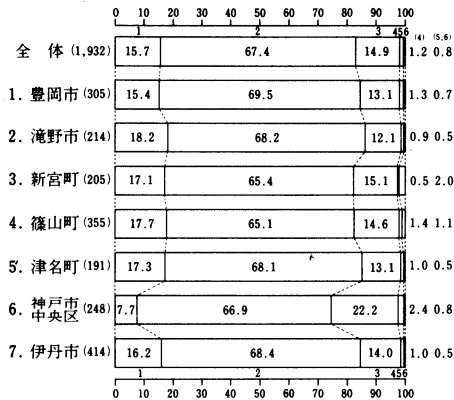
(3) 近隣つき合いに対する満足度

近隣つき合いに対する満足度についてみると、

1) 全体の傾向

全体的にみると、「大いに満足」は 15.7%であるが、「どちらかといえば満足」が 67.4%と極めて多く、「やや不満」が 14.9%である。大多数の

近隣つき合いの満足度



- 1. 大満足
- 2. どちらかといえば満足
- 3. どちらかといえば不満
- 4. 大満足
- 5.6. 不明・その他

人は「どちらかといえば満足」であることがわかる。

2) 地域別

地域別では、神戸市が「大変満足」が 7.7%と平均の半分ほどであり、「どちらかといえば不満」が 22.2%と平均よりかなり多く成っている。すなわち神戸市では不満の人が多い。

他の地区は「どちらかといえば不満」が神戸市より少ない。ただしこれは神戸市を含めて、ほぼ近似した値を示している。

(4) 引越した時のあいさつ廻り

1) 全体の傾向

家族が引越しをしてある地域に入居した時のあいさつ廻りについて、まず全体の傾向をみると、「何もしない」のは 3.0%ときわめて少なく、また「ひとりであいさつだけ」というのも 5%と少ない。次に「ひとりで何か持って」廻った人が 37%と多い。さらに「役員に紹介してもらって廻る」のが 4%いる。

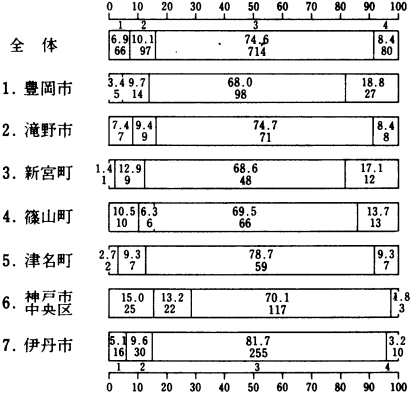
ただあいさつの必要のない「もともと住んでいる」人が 46%いるので、これと「不明」を除いてパーセントを計算すると、「何か持って廻る」が実に 74.6%、「地元役員の紹介」が 8.4%いる。したがってほとんどの人は「何か持って廻る」か「地元役員の紹介」であいさつしていることになる。

2) 地域別

これを地域別にみると、「もともと住んでいる」

引越した時のあいさつ廻り

(もともと住んでいる人を除く)



- 1. 何もしない
- 2. 1人であいさつだけ
- 3. 1人で何か持って廻る
- 4. 役員の紹介で廻る

人が神戸市 31.9%，伊丹市 22.0%と少ないのに対して新宮町で 61.5%，篠山町で 65.4%と 6 割を越えている。これは大都市において流動性が高く新宮町や篠山町では低いことを示している。

そこであいさつ廻りに関係のない「もとから住んでいる」と「不明」を除いてみると、「役員の紹介で廻った」が多いのは豊岡（18.8%），新宮（17.1%），篠山（13.7%）で、「何もしない」が多いのは神戸市（15%）と篠山（10.5%）である。これからみても大都市と地方都市の違いがみられる。

(5) 地区の寄付

地区で寄付を求められた場合にどのように対応するかについてみると、

1) 全体の傾向

全体としてみると、「進んで応じる」が 22.6%，「まあ応じる」が 64.0%，「なんともいえない」10.4%となっている。したがって応じる人は 86.6%にも達している。

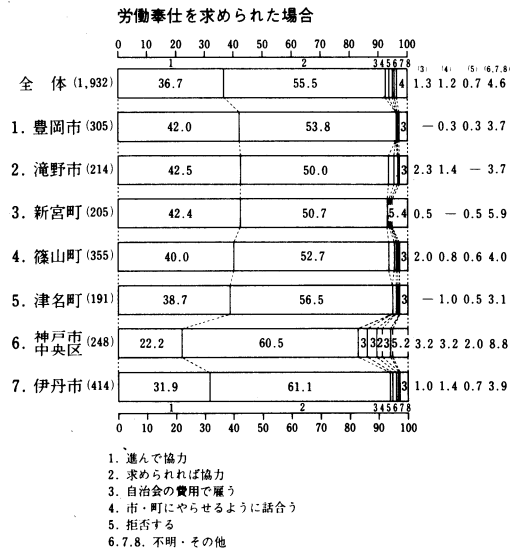
2) 地域別

この間については地域別にみて大きな差異がみられない。「応じる」がやや多いのは「津名町」の 94.7%である。神戸市と伊丹市では「なんともいえない」が少し多くなっているが、いずれも 8 割以上は協力すると答えており、地域別の差は小さい。

(6) 地区の労働奉仕

1) 全体の傾向

地区で労働奉仕を求められる場合にどのように対応するかについてみると、「進んで協力」は 36.7%，「求められれば協力」は 55.5%となっており、その他は少ない。



2) 地域別

地域別にみると、「進んで協力」が少ないのは神戸市中央区の 22.2%と伊丹市 31.9%である。しかし伊丹市は「求められれば協力」が 61.1%と他の地域よりむしろやや多くなっている。そこで神戸市中央区を除くと、他の地区では協力する人の割合は大きな違いはない。

3) 居住年数 (表15～22)

地域における労働奉仕については「協力」する用意のある人が 95%に達しており、これを拒否しようとする人はほとんど居ない。

これを居住年数別にみても大きな違いはみられないが、56年以降にきた人に「拒否」がやや多い。

これを市町別にみると、神戸市中央区では「協力」以外の割合が 56年以降の人にやや多く成っている。

8) 年齢 (表23～30)

労働奉仕を年齢別にみると、「進んで協力」は年齢と相関がみられる。すなわち年齢が高くなるほど「進んで協力」が多くなる。

これを市町別にみると、豊岡市、滝野市、新宮

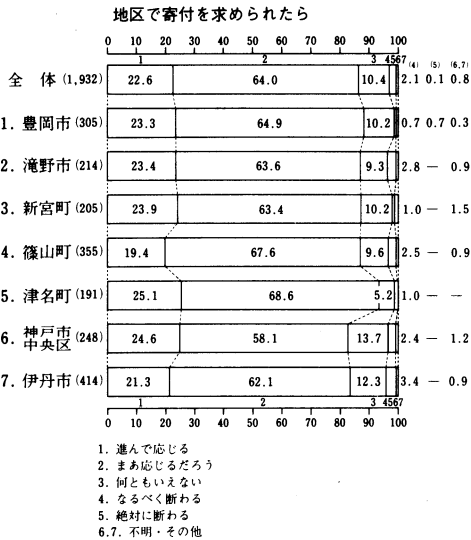


表15 全体 労働奉仕と居住年数

労働奉仕 居住年数	合 計	1 進んで 協力	2 求められ れば協力	3 会の費用で 人を雇う	4 市町にやらせる ため話し合う	5 拒否する	6 その他
合 計	1608 100.0	604 37.6	931 57.9	23 1.4	22 1.4	13 0.8	15 0.9
1 明 治 以 前	422 100.0	209 49.5	201 47.6	2 0.5	4 0.9	3 0.7	3 0.7
2 明 治 時 代	158 100.0	59 37.3	95 60.1	1 0.6	— —	1 0.6	2 1.3
3 大 正 時 代	71 100.0	32 45.1	37 52.1	1 1.4	1 1.4	— —	— —
4 昭和1～20年	119 100.0	47 39.5	64 53.8	3 2.5	1 0.8	1 0.8	3 2.5
5 昭和21～30年	146 100.0	48 32.9	90 61.6	2 1.4	3 2.1	1 0.7	2 1.4
6 昭和31～40年	138 100.0	53 38.4	79 57.2	1 0.7	3 2.2	1 0.7	1 0.7
7 昭和41～50年	231 100.0	68 29.4	150 64.9	7 3.0	4 1.7	1 0.4	1 0.4
8 昭和51～55年	155 100.0	50 32.3	97 62.6	1 0.6	3 1.9	1 0.6	3 1.9
9 昭和56年以降	168 100.0	38 22.6	118 70.2	5 3.0	3 1.8	4 2.4	— —

表16 豊岡市

労働奉仕 居住年数	合 計	1 進んで 協力	2 求められ れば協力	3 会の費用で 人を雇う	4 市町にやらせる ため話し合う	5 拒否する	6 その他
合 計	258 100.0	110 42.6	144 55.8	— —	1 0.4	1 0.4	2 0.8
1 明 治 以 前	79 100.0	39 49.4	39 49.4	— —	— —	— —	1 1.3
2 明 治 時 代	21 100.0	6 28.6	13 61.9	— —	— —	1 4.8	1 4.8
3 大 正 時 代	14 100.0	5 35.7	9 64.3	— —	— —	— —	— —
4 昭和1～20年	24 100.0	14 58.3	10 41.7	— —	— —	— —	— —
5 昭和21～30年	14 100.0	3 21.4	11 78.6	— —	— —	— —	— —
6 昭和31～40年	22 100.0	11 50.0	11 50.0	— —	— —	— —	— —
7 昭和41～50年	42 100.0	14 33.3	27 64.3	— —	1 2.4	— —	— —
8 昭和51～55年	23 100.0	10 43.5	13 56.5	— —	— —	— —	— —
9 昭和56年以降	19 100.0	8 42.1	11 57.9	— —	— —	— —	— —

表17 滝野町 労働奉仕と居住年数

労働奉仕 居住年数							
	合 計	1 進んで 協力	2 求められ れば協力	3 会の費用で 人を雇う	4 市町にやらせる ため話し合う	5 拒否する	6 その他
合 計	185 100.0	81 43.8	95 51.4	4 2.2	3 1.6	— —	2 1.1
1 明 治 以 前	52 100.0	32 61.5	18 34.6	— —	2 3.8	— —	— —
2 明 治 時 代	27 100.0	10 37.0	17 63.0	— —	— —	— —	— —
3 大 正 時 代	14 100.0	6 42.9	7 50.0	— —	1 7.1	— —	— —
4 昭和1～20年	12 100.0	4 33.3	7 58.3	1 8.3	— —	— —	— —
5 昭和21～30年	13 100.0	5 38.5	7 53.8	— —	— —	— —	1 7.7
6 昭和31～40年	11 100.0	6 54.5	5 45.5	— —	— —	— —	— —
7 昭和41～50年	18 100.0	4 22.2	13 72.2	1 5.6	— —	— —	— —
8 昭和51～55年	20 100.0	7 35.0	11 55.0	1 5.0	— —	— —	1 5.0
9 昭和56年以降	18 100.0	7 38.9	10 55.6	1 5.6	— —	— —	— —

表18 新宮町

労働奉仕 居住年数							
	合 計	1 進んで 協力	2 求められ れば協力	3 会の費用で 人を雇う	4 市町にやらせる ため話し合う	5 拒否する	6 その他
合 計	170 100.0	74 43.5	93 54.7	1 0.6	— —	1 0.6	1 0.6
1 明 治 以 前	74 100.0	29 39.2	44 59.5	— —	— —	1 1.4	— —
2 明 治 時 代	19 100.0	7 36.8	12 63.2	— —	— —	— —	— —
3 大 正 時 代	10 100.0	8 80.0	2 20.0	— —	— —	— —	— —
4 昭和1～20年	8 100.0	4 50.0	4 50.0	— —	— —	— —	— —
5 昭和21～30年	13 100.0	8 61.5	5 38.5	— —	— —	— —	— —
6 昭和31～40年	10 100.0	6 60.0	3 30.0	— —	— —	— —	1 10.0
7 昭和41～50年	20 100.0	6 30.0	13 65.0	1 5.0	— —	— —	— —
8 昭和51～55年	8 100.0	3 37.5	5 62.5	— —	— —	— —	— —
9 昭和56年以降	8 100.0	3 37.5	5 62.5	— —	— —	— —	— —

表19 篠山町 労働奉仕と居住年数

労働奉仕 居住年数	合 計	1 進んで 協力	2 求められ れば協力	3 会の費用で 人を雇う	4 市町にやらせる ため話し合う	5 拒否する	6 その他
合 計	285 100.0	116 40.7	157 55.1	6 2.1	3 1.1	2 0.7	1 0.4
1 明 治 以 前	127 100.0	64 50.4	59 46.5	1 0.8	2 1.6	1 0.8	— —
2 明 治 時 代	43 100.0	16 37.2	26 60.5	1 2.3	— —	— —	— —
3 大 正 時 代	17 100.0	5 29.4	11 64.7	1 5.9	— —	— —	— —
4 昭和1～20年	19 100.0	8 42.1	10 52.6	— —	— —	— —	1 5.3
5 昭和21～30年	19 100.0	8 42.1	11 57.9	— —	— —	— —	— —
6 昭和31～40年	14 100.0	4 28.6	10 71.4	— —	— —	— —	— —
7 昭和41～50年	17 100.0	8 47.1	8 47.1	— —	1 5.9	— —	— —
8 昭和51～55年	10 100.0	2 20.0	8 80.0	— —	— —	— —	— —
9 昭和56年以降	19 100.0	1 5.3	14 73.7	3 15.8	— —	1 5.3	— —

表20 津名町

労働奉仕 居住年数	合 計	1 進んで 協力	2 求められ れば協力	3 会の費用で 人を雇う	4 市町にやらせる ため話し合う	5 拒否する	6 その他
合 計	157 100.0	63 40.1	92 58.6	— —	1 0.6	1 0.6	— —
1 明 治 以 前	54 100.0	28 51.9	26 48.1	— —	— —	— —	— —
2 明 治 時 代	35 100.0	14 40.0	21 60.0	— —	— —	— —	— —
3 大 正 時 代	4 100.0	2 50.0	2 50.0	— —	— —	— —	— —
4 昭和1～20年	11 100.0	4 36.4	7 63.6	— —	— —	— —	— —
5 昭和21～30年	12 100.0	3 25.0	9 75.0	— —	— —	— —	— —
6 昭和31～40年	12 100.0	4 33.3	8 66.7	— —	— —	— —	— —
7 昭和41～50年	13 100.0	4 30.8	8 61.5	— —	1 7.7	— —	— —
8 昭和51～55年	8 100.0	2 25.0	6 75.0	— —	— —	— —	— —
9 昭和56年以降	8 100.0	2 25.0	5 62.5	— —	— —	1 12.5	— —

表21 神戸市中央区 労働奉仕と居住年数

労働奉仕 居住年数	合 計	1 進んで 協力	2 求められ れば協力	3 会の費用で 人を雇う	4 市町にやらせる ため話し合う	5 拒否する	6 その他
合 計	207 100.0	46 22.2	133 64.3	8 3.9	8 3.9	5 2.4	7 3.4
1 明 治 以 前	7 100.0	2 28.6	2 28.6	1 14.3	— —	— —	2 28.6
2 明 治 時 代	6 100.0	2 33.3	3 50.0	— —	— —	— —	1 16.7
3 大 正 時 代	5 100.0	3 60.0	2 40.0	— —	— —	— —	— —
4 昭和1～20年	28 100.0	6 21.4	17 60.7	2 7.1	1 3.6	1 3.6	1 3.6
5 昭和21～30年	39 100.0	11 28.2	23 59.0	1 2.6	2 5.1	1 2.6	1 2.6
6 昭和31～40年	27 100.0	7 25.9	18 66.7	— —	2 7.4	— —	— —
7 昭和41～50年	41 100.0	7 17.1	28 68.3	3 7.3	1 2.4	1 2.4	1 2.4
8 昭和51～55年	18 100.0	3 16.7	14 77.8	— —	— —	— —	1 5.6
9 昭和56年以降	36 100.0	5 13.9	26 72.2	1 2.8	2 5.6	2 5.6	— —

表22 伊丹市

労働奉仕 居住年数	合 計	1 進んで 協力	2 求められ れば協力	3 会の費用で 人を雇う	4 市町にやらせる ため話し合う	5 拒否する	6 その他
合 計	346 100.0	114 32.9	217 62.7	4 1.2	6 1.7	3 0.9	2 0.6
1 明 治 以 前	29 100.0	15 51.7	13 44.8	— —	— —	1 3.4	— —
2 明 治 時 代	7 100.0	4 57.1	3 42.9	— —	— —	— —	— —
3 大 正 時 代	7 100.0	3 42.9	4 57.1	— —	— —	— —	— —
4 昭和1～20年	17 100.0	7 41.2	9 52.9	— —	— —	— —	1 5.9
5 昭和21～30年	36 100.0	10 27.8	24 66.7	1 2.8	1 2.8	— —	— —
6 昭和31～40年	42 100.0	15 35.7	24 57.1	1 2.4	1 2.4	1 2.4	— —
7 昭和41～50年	80 100.0	25 31.3	53 66.3	2 2.5	— —	— —	— —
8 昭和51～55年	68 100.0	23 33.8	40 58.8	— —	3 4.4	1 1.5	1 1.5
9 昭和56年以降	60 100.0	12 20.0	47 78.3	— —	1 1.7	— —	— —

表23 全体 労働奉仕と年齢

年 齢 \ 労働奉仕	合 計	1 進んで 協力	2 求められ れば協力	3 会の費用で 人を雇う	4 市町にやらせる ため話し合う	5 拒否する	6 その他
1 20歳未満	3 100.0	— —	3 100.0	— —	— —	— —	— —
2 20～29歳	39 100.0	5 12.8	28 71.8	5 12.8	— —	1 2.6	— —
3 30～39歳	258 100.0	62 24.0	185 71.7	4 1.6	2 0.8	2 0.8	3 1.2
4 40～49歳	377 100.0	139 36.9	224 59.4	5 1.3	5 1.3	2 0.5	2 0.5
5 50～59歳	423 100.0	173 40.9	235 55.6	4 0.9	4 0.9	3 0.7	4 0.9
6 60～69歳	269 100.0	124 46.1	135 50.2	1 0.4	6 2.2	1 0.4	2 0.7
7 70歳以上	108 100.0	58 53.7	46 42.6	2 1.9	— —	1 0.9	1 0.9

表24 豊岡市

年 齢 \ 労働奉仕	合 計	1 進んで 協力	2 求められ れば協力	3 会の費用で 人を雇う	4 市町にやらせる ため話し合う	5 拒否する	6 その他
1 20歳未満	1 100.0	— —	1 100.0	— —	— —	— —	— —
2 20～29歳	3 100.0	1 33.3	2 66.7	— —	— —	— —	— —
3 30～39歳	39 100.0	14 35.9	24 61.5	— —	— —	— —	1 2.6
4 40～49歳	82 100.0	33 40.2	48 58.5	— —	1 1.2	— —	— —
5 50～59歳	83 100.0	40 48.2	43 51.8	— —	— —	— —	— —
6 60～69歳	30 100.0	12 40.0	17 56.7	— —	— —	— —	1 3.3
7 70歳以上	6 100.0	4 66.7	2 33.3	— —	— —	— —	— —

表25 新宮町

年 齢 \ 労働奉仕	合 計	1 進んで 協力	2 求められ れば協力	3 会の費用で 人を雇う	4 市町にやらせる ため話し合う	5 拒否する	6 その他
1 20歳未満	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
2 20～29歳	1 100.0	— —	1 100.0	— —	— —	— —	— —
3 30～39歳	25 100.0	7 28.0	18 72.0	— —	— —	— —	— —
4 40～49歳	40 100.0	20 50.0	20 50.0	— —	— —	— —	— —
5 50～59歳	42 100.0	14 33.3	26 61.9	1 2.4	— —	— —	1 2.4
6 60～69歳	33 100.0	20 60.6	13 39.4	— —	— —	— —	— —
7 70歳以上	14 100.0	6 42.9	8 57.1	— —	— —	— —	— —

表26 滝野町 労働率仕と年齢

労働率仕 年 齢	合 計	1 進んで 協力	2 求められ れば協力	3 会の費用で 人を雇う	4 市町にやらせる ため話し合う	5 拒否する	6 その他
1 20歳未満	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
2 20～29歳	5 100.0	1 20.0	3 60.0	1 20.0	— —	— —	— —
3 30～39歳	31 100.0	8 25.8	21 67.7	1 3.2	— —	— —	1 3.2
4 40～49歳	46 100.0	18 39.1	26 56.5	2 4.3	— —	— —	— —
5 50～59歳	32 100.0	19 59.4	13 40.6	— —	— —	— —	— —
6 60～69歳	39 100.0	21 53.8	17 43.6	— —	1 2.6	— —	— —
7 70歳以上	15 100.0	10 66.7	5 33.3	— —	— —	— —	— —

表27 篠山町

労働率仕 年 齢	合 計	1 進んで 協力	2 求められ れば協力	3 会の費用で 人を雇う	4 市町にやらせる ため話し合う	5 拒否する	6 その他
1 20歳未満	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
2 20～29歳	9 100.0	2 22.2	5 55.6	2 22.2	— —	— —	— —
3 30～39歳	33 100.0	6 18.2	25 75.8	1 3.0	— —	1 3.0	— —
4 40～49歳	48 100.0	18 37.5	29 60.4	1 2.1	— —	— —	— —
5 50～59歳	89 100.0	43 48.3	44 49.4	1 1.1	1 1.1	— —	— —
6 60～69歳	59 100.0	30 50.8	27 45.8	— —	2 3.4	— —	— —
7 70歳以上	27 100.0	12 44.4	13 48.1	1 3.7	— —	— —	1 3.7

表28 津名町

労働率仕 年 齢	合 計	1 進んで 協力	2 求められ れば協力	3 会の費用で 人を雇う	4 市町にやらせる ため話し合う	5 拒否する	6 その他
1 20歳未満	2 100.0	— —	2 100.0	— —	— —	— —	— —
2 20～29歳	4 100.0	— —	3 75.0	— —	— —	1 25.0	— —
3 30～39歳	24 100.0	5 20.8	19 79.2	— —	— —	— —	— —
4 40～49歳	42 100.0	17 40.5	25 59.5	— —	— —	— —	— —
5 50～59歳	37 100.0	15 40.5	21 56.8	— —	1 2.7	— —	— —
6 60～69歳	24 100.0	13 54.2	11 45.8	— —	— —	— —	— —
7 70歳以上	5 100.0	4 80.0	1 20.0	— —	— —	— —	— —

表29 伊丹市 労働事仕と年齢

労働奉仕 年 齢	合 計	1 進んで 協力	2 求められ れば協力	3 会の費用で 人を雇う	4 市町にやらせる ため話し合う	5 拒否する	6 その他
1 20歳未満	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
2 20～29歳	10 100.0	1 10.0	9 90.0	— —	— —	— —	— —
3 30～39歳	72 100.0	19 26.4	50 69.4	1 1.4	2 2.8	— —	— —
4 40～49歳	85 100.0	26 30.6	55 64.7	1 1.2	1 1.2	1 1.2	1 1.2
5 50～59歳	85 100.0	29 34.1	53 62.4	1 1.2	— —	1 1.2	1 1.2
6 60～69歳	50 100.0	20 40.0	28 56.0	— —	2 4.0	— —	— —
7 70歳以上	21 100.0	11 52.4	9 42.9	— —	— —	1 4.8	— —

表30 神戸市中央区

労働奉仕 年 齢	合 計	1 進んで 協力	2 求められ れば協力	3 会の費用で 人を雇う	4 市町にやらせる ため話し合う	5 拒否する	6 その他
1 20歳未満	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
2 20～29歳	7 100.0	— —	5 71.4	2 28.6	— —	— —	— —
3 30～39歳	34 100.0	3 8.8	28 82.4	1 2.9	— —	1 2.9	1 2.9
4 40～49歳	34 100.0	7 20.6	21 61.8	1 2.9	3 8.8	1 2.9	1 2.9
5 50～59歳	55 100.0	13 23.6	35 63.6	1 1.8	2 3.6	2 3.6	2 3.6
6 60～69歳	34 100.0	8 23.5	22 64.7	1 2.9	1 2.9	1 2.9	1 2.9
7 70歳以上	20 100.0	11 55.0	8 40.0	1 5.0	— —	— —	— —

町、篠山町にはやや不規則なところもあるが、大きく見ると、高年齢ほど「進んで協力」が多くなっている。

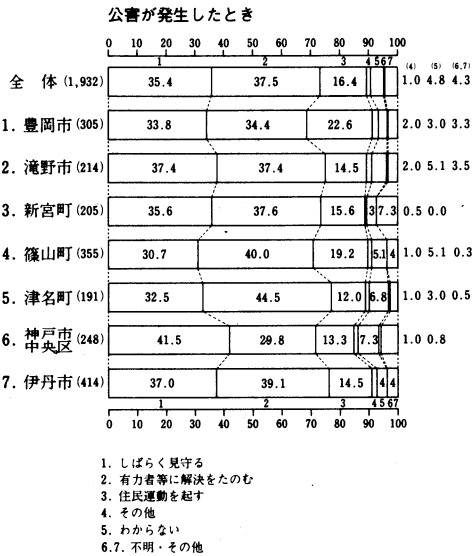
(7) 公害問題への対応

1) 全体の傾向

公害問題への対応を全体からみると、「しばらく事態を見守る」が 35.4%，「しかるべき人に解決を頼む」37.5%，「住民運動を起す」16.4%となっている。これによっても積極的に運動する人が少ないことがわかる。

2) 地域別

地域別にみると、「住民運動を起す」のは豊岡市 (22.6%) と篠山町 (19.2%) にやや多い。



〔4〕 団体加入と活動参加

1) 全体の傾向

全体をみると、会員となっている人の割合が多いのは、町内会、婦人会、スポーツ・文化・趣味の会、子供会、農協、老人会の順となっている。

ことに町内会は 76.2% が会員となっており、他の団体に比較して格段に多い。第 2 位は婦人会の 43.6% である。これら二つが地域にとって重要な団体であるといえよう。

表31 地域住民組織への参加

団 体 名	会 員	役 員
A 町内会・自治会	①76.2	18.8
B 婦 人 会	②43.6	6.3
C 消防団・警防団	⑨11.1	2.7
d 子 供 会	④23.7	5.4
e 老 人 会	⑥21.2	3.6
f J. C.	0.8	0.2
G 青 年 団	1.8	0.4
H 商 店 会	8.5	2.1
I 農 協 ・ 漁 協	⑤21.4	2.8
J ボ ラ ン テ ィ ア	8.7	1.8
K スポーツ・文化・趣味の会	③27.7	5.1
L 宗 教 関 係	⑦18.9	3.5
M 政治家の後援会	⑧15.7	1.4

2) 地域別

④ (1位) 自治会・町内会・部落会 (表32)

地域別にみると、地方の市や町の場合には加入率はいずれも 80% をこえているのに対して大都市圏内の伊丹市では 73.7% とやや低く、神戸市では 38.3% ときわめて低くなっている。

したがって、自治会、町内会については地方都市と大都市圏の間に大きな格差がみられることがわかる。

これは会合への出席率についても同様で、他の市や町では出席(いつも出席とときどき出席)が 70~80% であるのに対して、伊丹市では 46%、神戸市では 27% と低い。

⑤ (2位) 婦人会 (表33)

婦人会の加入については三つの段階に分かれ

る。滝野町 (78.0%)、新宮町 (62.6%) では高く、豊岡市 (44.9%)、篠山町 (47.0%)、津名町 (47.6%) では中程度の加入率で、神戸市 (24.6%) と伊丹市 (22.2%) はさらに低い加入率である。

⑥ (3位) スポーツ・文化・趣味 (表34)

地域別にみると、篠山町 (31.8%)、豊岡市 (30.5%)、津名町 (30.4%) が 30% 台であり、滝野町 (28.5%) と神戸市中央区 (26.2%) は 25% を越えているが、新宮町 (24.9%) と伊丹市 (22.7%) ではさらに低く成っている。

したがって、新宮町をのぞけば、地方の市町の方が神戸市中央区や伊丹市よりも参加率が高く成っている。

⑦ (4位) 子供会 (表35)

子供会についても、地方の市や町では 24.8% から 34.1% と加入率が高いが、これに反して伊丹市では 18.8% と低く、さらに神戸市では 4.0% ときわめて低く成っている。

したがって子供会への参加は地方の都市において盛んで、大都市圏の都市では少ないといえよう。

⑧ (5位) 農協・漁協 (表37)

当然のことながら地方の市や町では加入率は 24.9% から 42.9% と高いが、大都市圏の伊丹市 4.3%、神戸市では 1.6% と低い。

⑨ (6位) 老人会 (表36)

地方の市や町では豊岡市の 19.7% から新宮町の 32.2% と高いが、大都市圏の伊丹市では 14.5% と低く、さらに神戸では 5.6% と極めて低く成っている。

⑩ (7位) 宗教関係 (表38)

宗教への参加は他とは違った形を示している。宗教関係の加入が多いのは新宮 (24.9%)、篠山 (24.8%)、で次に豊岡市 (20.7%) と神戸市 (20.6%) で、津名町 (18.8%)、伊丹市 (13.5%) と続いている。滝野町 (9.3%) が最も低い。

⑪ (8位) 政治家の後援会 (表39)

後援会への加入で多いのは新宮町 (22.0%)、津名町 (22.5%) で、次いで篠山町 (18.6%)、神戸市 (18.5%)、豊岡市 (15.7%) で、伊丹市 (8.0%) は最も少ない。

⑫ (9位) 消防団・警防団 (表40)

消防団の加入率が高いのは新宮町 (20.5%) で、次に豊岡市 (17.4%) と篠山町 (15.8%) が高く、

表32 会員・会合出席・活動参加（自治会）

市・町	合計	1 会員	2 役員	3	4	5	6	7	8	9
				会 合 出 席			活 動 参 加			不明
				いつも出席	時々出席	ほとんど欠席	いつも参加	時々参加	ほとんど不参加	
合 計	1932 100.0	1472 76.2	363 18.8	940 48.7	325 16.8	143 7.4	712 36.9	335 17.3	131 6.8	380 19.7
1 豊 岡 市	305 100.0	255 83.6	76 24.9	194 63.6	48 15.7	5 1.6	139 45.6	56 18.4	5 1.6	47 15.4
2 滝 野 町	214 100.0	183 85.5	40 18.7	132 61.7	38 17.8	6 2.8	99 46.3	48 22.4	5 2.3	29 13.6
3 新 宮 町	205 100.0	174 84.9	28 13.7	129 62.9	38 18.5	1 0.5	92 44.9	36 17.6	4 2.0	31 15.1
4 篠 山 町	355 100.0	297 83.7	92 25.9	242 68.2	39 11.0	9 2.5	191 53.8	34 9.6	11 3.1	53 14.9
5 津 名 町	191 100.0	163 85.3	38 19.9	110 57.6	34 17.8	11 5.8	79 41.4	33 17.3	8 4.2	22 11.5
6 神戸市中央区	248 100.0	95 38.3	32 12.9	32 12.9	36 14.5	32 12.9	24 9.7	27 10.9	31 12.5	128 51.6
7 伊 丹 市	414 100.0	305 73.7	57 13.8	101 24.4	92 22.2	79 19.1	88 21.3	101 24.4	67 16.2	70 16.9

表33 会員・会合出席・活動参加（婦人会）

市・町	会員・参加 合計	1 会員	2 役員	3	4	5	6	7	8	9
				会 合 出 席			活 動 参 加			不明
				いつも出席	時々出席	ほとんど欠席	いつも参加	時々参加	ほとんど不参加	
合 計	1932 100.0	842 43.6	122 6.3	492 25.5	227 11.7	126 6.5	334 17.3	254 13.1	135 7.0	993 51.4
1 豊 岡 市	305 100.0	137 44.9	24 7.9	100 32.8	32 10.5	5 1.6	61 20.0	45 14.8	6 2.0	163 53.4
2 滝 野 町	214 100.0	134 62.6	19 8.9	69 32.2	48 22.4	10 4.7	53 24.8	49 22.9	11 5.1	73 34.1
3 新 宮 町	205 100.0	160 78.0	17 8.3	115 56.1	31 15.1	5 2.4	66 32.2	35 17.1	8 3.9	45 22.0
4 篠 山 町	355 100.0	167 47.0	27 7.6	125 35.2	35 9.9	9 2.5	91 25.6	42 11.8	11 3.1	180 50.7
5 津 名 町	191 100.0	91 47.6	12 6.3	41 21.5	33 17.3	10 5.2	33 17.3	32 16.8	11 5.8	92 48.2
6 神戸市中央区	248 100.0	61 24.6	14 5.6	13 5.2	15 6.0	38 15.3	9 3.6	18 7.3	34 13.7	163 65.7
7 伊 丹 市	414 100.0	92 22.2	9 2.2	29 7.0	33 8.0	49 11.8	21 5.1	33 8.0	54 13.0	277 66.9

表34 会員・会合出席・活動参加（スポーツ・文化・趣味の会）

市・町	会員・参加 合計	1 会員	2 役員	3	4	5	6	7	8	9
				会 合 出 席			活 動 参 加			不明
				いつも出席	時々出席	ほとんど欠席	いつも参加	時々参加	ほとんど不参加	
合 計	1932 100.0	535 27.7	98 5.1	298 15.4	138 7.1	44 2.3	273 14.1	141 7.3	59 3.1	1340 69.4
1 豊 岡 市	305 100.0	93 30.5	26 8.5	62 20.3	19 6.2	2 0.7	52 17.0	22 7.2	2 0.7	210 68.9
2 滝 野 町	214 100.0	61 28.5	7 3.3	35 16.4	14 6.5	1 0.5	31 14.5	18 8.4	2 0.9	152 71.0
3 新 宮 町	205 100.0	51 24.9	7 3.4	26 12.7	15 7.3	5 2.4	22 10.7	15 7.3	4 2.0	149 72.7
4 篠 山 町	355 100.0	113 31.8	25 7.0	71 20.0	25 7.0	3 0.8	64 18.0	27 7.6	7 2.0	238 67.0
5 津 名 町	191 100.0	58 30.4	11 5.8	34 17.8	15 7.9	3 1.6	29 15.2	15 7.9	6 3.1	127 66.5
6 神戸市中央区	248 100.0	65 26.2	8 3.2	23 9.3	27 10.9	9 3.6	27 10.9	19 7.7	14 5.6	171 69.0
7 伊 丹 市	414 100.0	94 22.7	14 3.4	47 11.4	23 5.6	21 5.1	48 11.6	25 6.0	24 5.8	293 70.8

表35 会員・会合出席・活動参加（子供会）

市・町	会員・参加 合計	1 会員	2 役員	3	4	5	6	7	8	9
				会 合 出 席			活 動 参 加			不明
				いつも出席	時々出席	ほとんど欠席	いつも参加	時々参加	ほとんど不参加	
合 計	1932 100.0	458 23.7	105 5.4	294 15.2	95 4.9	74 3.8	281 14.5	78 4.0	83 4.3	1395 72.2
1 豊 岡 市	305 100.0	104 34.1	33 10.8	69 22.6	25 8.2	7 2.3	73 23.9	16 5.2	6 2.0	195 63.9
2 滝 野 町	214 100.0	53 24.8	11 5.1	32 15.0	13 6.1	5 2.3	32 15.0	11 5.1	4 1.9	157 73.4
3 新 宮 町	205 100.0	64 31.2	13 6.3	50 24.4	6 2.9	3 1.5	46 22.4	2 1.0	4 2.0	137 66.8
4 篠 山 町	355 100.0	89 25.1	16 4.5	64 18.0	18 5.1	6 1.7	57 16.1	11 3.1	8 2.3	260 73.2
5 津 名 町	191 100.0	60 31.4	13 6.8	40 20.9	13 6.8	4 2.1	34 17.8	10 5.2	6 3.1	126 66.0
6 神戸市中央区	248 100.0	10 4.0	3 1.2	5 2.0	2 0.8	17 6.9	5 2.0	3 1.2	22 8.9	215 86.7
7 伊 丹 市	414 100.0	78 18.8	16 3.9	34 8.2	18 4.3	32 7.7	34 8.2	25 6.0	33 8.0	305 73.7

表36 会員・会合出席・活動参加（老人会）

市・町	合計	1 会員	2 役員	3	4	5	6	7	8	9
				会 合 出 席			活 動 参 加			不明
				いつも出席	時々出席	ほとんど欠席	いつも参加	時々参加	ほとんど不参加	
合 計	1932 100.0	410 21.2	70 3.6	210 10.9	122 6.3	101 5.2	147 7.6	108 5.6	113 5.8	1434 74.2
1 豊 岡 市	305 100.0	60 19.7	9 3.0	33 10.8	19 6.2	10 3.3	18 5.9	19 6.2	13 4.3	239 78.4
2 滝 野 町	214 100.0	51 23.8	9 4.2	23 10.7	17 7.9	9 4.2	16 7.5	16 7.5	9 4.2	159 74.3
3 新 宮 町	205 100.0	66 32.2	6 2.9	30 14.6	21 10.2	7 3.4	25 12.2	17 8.3	6 2.9	135 65.9
4 篠 山 町	355 100.0	110 31.0	19 5.4	69 19.4	27 7.6	12 3.4	52 14.6	24 6.8	14 3.9	235 66.2
5 津 名 町	191 100.0	49 25.7	12 6.3	22 11.5	14 7.3	12 6.3	17 8.9	13 6.8	12 6.3	133 69.6
6 神戸市中央区	248 100.0	14 5.6	6 2.4	4 1.6	6 2.4	16 6.5	3 1.2	4 1.6	23 9.3	212 85.5
7 伊 丹 市	414 100.0	60 14.5	9 2.2	29 7.0	18 4.3	35 8.5	16 3.9	15 3.6	36 8.7	321 77.5

表37 会員・会合出席・活動参加（農協・漁協・森林組合）

市・町	合計	1 会員	2 役員	3	4	5	6	7	8	9
				会 合 出 席			活 動 参 加			不明
				いつも出席	時々出席	ほとんど欠席	いつも参加	時々参加	ほとんど不参加	
合 計	1932 100.0	414 21.4	55 2.8	168 8.7	136 7.0	100 5.2	107 5.5	119 6.2	119 6.2	1440 74.5
1 豊 岡 市	305 100.0	76 24.9	9 3.0	31 10.2	26 8.5	13 4.3	22 7.2	23 7.5	11 3.6	225 73.8
2 滝 野 町	214 100.0	57 26.6	6 2.8	20 9.3	17 7.9	14 6.5	14 6.5	20 9.3	13 6.1	153 71.5
3 新 宮 町	205 100.0	88 42.9	12 5.9	23 11.2	31 15.1	13 6.3	11 5.4	21 10.2	17 8.3	112 54.6
4 篠 山 町	355 100.0	118 33.2	14 3.9	55 15.5	41 11.5	12 3.4	33 9.3	45 12.7	14 3.9	230 64.8
5 津 名 町	191 100.0	53 27.7	9 4.7	28 14.7	15 7.9	9 4.7	19 9.9	8 4.2	14 7.3	129 67.5
6 神戸市中央区	248 100.0	4 1.6	1 0.4	2 0.8	2 0.8	12 4.8	2 0.8	—	19 7.7	226 91.1
7 伊 丹 市	414 100.0	18 4.3	4 1.0	9 2.2	4 1.0	27 6.5	6 1.4	2 0.5	31 7.5	365 88.2

表38 会員・会合出席・活動参加（宗教関係団体）

市・町	会員・参加 合計	1 会員	2 役員	3	4	5	6	7	8	9
				会 合 出 席			活 動 参 加			不明
				いつも出席	時々出席	ほとんど欠席	いつも参加	時々参加	ほとんど不参加	
合 計	1932 100.0	365 18.9	68 3.5	167 8.6	148 7.7	66 3.4	120 6.2	116 6.0	91 4.7	1489 77.1
1 豊 岡 市	305 100.0	63 20.7	19 6.2	29 9.5	28 9.2	7 2.3	20 6.6	28 9.2	9 3.0	235 77.0
2 滝 野 町	214 100.0	20 9.3	2 0.9	9 4.2	8 3.7	5 2.3	6 2.8	10 4.7	6 2.8	190 88.8
3 新 宮 町	205 100.0	51 24.9	10 4.9	24 11.7	20 9.8	3 1.5	15 7.3	15 7.3	5 2.4	150 73.2
4 篠 山 町	355 100.0	88 24.8	16 4.5	47 13.2	24 6.8	8 2.3	36 10.1	25 7.0	9 2.5	259 73.0
5 津 名 町	191 100.0	36 18.8	4 2.1	18 9.4	13 6.8	7 3.7	8 4.2	10 5.2	11 5.8	147 77.0
6 神戸市中央区	248 100.0	51 20.6	8 3.2	13 5.2	32 12.9	13 5.2	12 4.8	15 6.0	21 8.5	180 72.6
7 伊 丹 市	414 100.0	56 13.5	9 2.2	27 6.5	23 5.6	23 5.6	23 5.6	13 3.1	30 7.2	328 79.2

表39 会員・会合出席・活動参加（政治家の後援会）

市・町	合計	1 会員	2 役員	3	4	5	6	7	8	9
				会 合 出 席			活 動 参 加			不明
				いつも出席	時々出席	ほとんど欠席	いつも参加	時々参加	ほとんど不参加	
合 計	1932 100.0	303 15.7	27 1.4	68 3.5	175 9.1	90 4.7	41 2.1	131 6.8	107 5.5	1550 80.2
1 豊 岡 市	305 100.0	48 15.7	5 1.6	15 4.9	26 8.5	8 2.6	9 3.0	23 7.5	11 3.6	252 82.6
2 滝 野 町	214 100.0	22 10.3	1 0.5	5 2.3	13 6.1	9 4.2	3 1.4	9 4.2	8 3.7	185 86.4
3 新 宮 町	205 100.0	45 22.0	2 1.0	13 6.3	22 10.7	9 4.4	7 3.4	21 10.2	9 4.4	154 75.1
4 篠 山 町	355 100.0	66 18.6	5 1.4	20 5.6	35 9.9	17 4.8	10 2.8	30 8.5	15 4.2	279 78.6
5 津 名 町	191 100.0	43 22.5	5 2.6	8 4.2	27 14.1	5 2.6	7 3.7	16 8.4	10 5.2	140 73.3
6 神戸市中央区	248 100.0	46 18.5	5 2.0	3 1.2	31 12.5	16 6.5	1 0.4	17 6.9	21 8.5	189 76.2
7 伊 丹 市	414 100.0	33 8.0	4 1.0	4 1.0	21 5.1	26 6.3	4 1.0	15 3.6	33 8.0	351 84.8

表40 会員・会合出席・活動参加（消防団・警防団）

市・町	会員・参加 合計	1 会員	2 役員	3	4	5	6	7	8	9
				会 合 出 席			活 動 参 加			不明
				いつも出席	時々出席	ほとんど欠席	いつも参加	時々参加	ほとんど不参加	
合 計	1932 100.0	214 11.1	53 2.7	139 7.2	48 2.5	74 3.8	123 6.4	40 2.1	99 5.1	1619 83.8
1 豊 岡 市	305 100.0	53 17.4	14 4.6	34 11.1	15 4.9	5 1.6	30 9.8	10 3.3	9 3.0	245 80.3
2 滝 野 市	214 100.0	24 11.2	3 1.4	17 7.9	7 3.3	5 2.3	16 7.5	4 1.9	6 2.8	184 86.0
3 新 宮 市	205 100.0	42 20.5	10 4.9	22 10.7	9 4.4	6 2.9	19 9.3	9 4.4	6 2.9	158 77.1
4 篠 山 町	355 100.0	56 15.8	13 3.7	37 10.4	11 3.1	8 2.3	34 9.6	12 3.4	11 3.1	290 81.7
5 津 名 町	191 100.0	23 12.0	8 4.2	22 11.5	1 0.5	3 1.6	16 8.4	1 0.5	8 4.2	160 83.8
6 神戸市中央区	248 100.0	7 2.8	1 0.4	1 0.4	2 0.8	16 6.5	2 0.8	2 0.8	21 8.5	219 88.3
7 伊 丹 市	414 100.0	9 2.2	4 1.0	6 1.4	3 0.7	31 7.5	6 1.4	2 0.5	38 9.2	363 87.7

津名町（12.5％）と滝野町（11.2％）がこれについている。これに対して神戸市（2.8％）と伊丹市（2.0％）はきわめて少ない。地方の市や町ではかなり高いが、大都市圏の伊丹市や神戸市ではきわめて少ない。

（4）町内会・自治会に対する態度

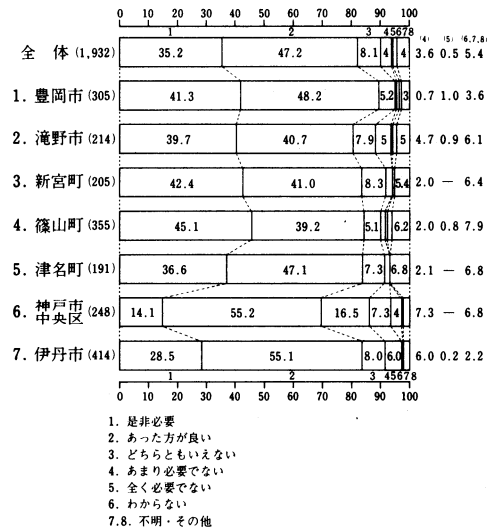
1）全体の傾向

町内会・自治会に対する態度についてみると、「是非必要」は35.2％、「あった方がよい」が47.2％で合計82％の人は肯定している。「どちらともいえない」は8.1％で、「必要でない」というのは4％ほどである。町内会・自治会が全般的に肯定されていることがわかる。

2）地域別

地域別にみると、「是非必要」は、地方の市町ではいずれも平均の35.2％を上廻っているが、

町内会・自治会・部落会について



自治会・町内会の必要性

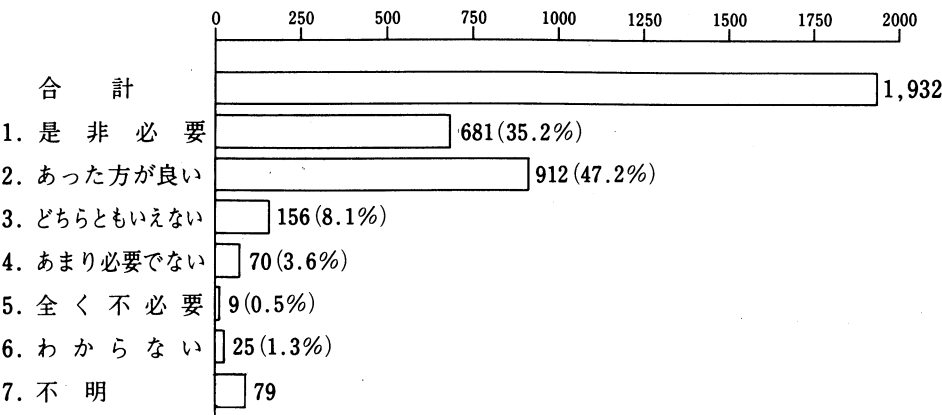


表41 自治会・町内会の必要性について

必要性	市・町	合計	1 是非必要	2 あった方が よい	3 どちらとも いえない	4 あまり必要 でない	5 全く不必要	6 わからない	7 不明
合 計		1932	681	912	156	70	9	25	79
		100.0	35.2	47.2	8.1	3.6	0.5	1.3	4.1
1 豊 岡 市		305	126	147	16	2	3	2	9
		100.0	41.3	48.2	5.2	0.7	1.0	0.7	2.9
2 滝 野 町		214	85	87	17	10	2	3	10
		100.0	39.7	40.7	7.9	4.7	0.9	1.4	4.7
3 新 宮 町		205	87	84	17	4	—	2	11
		100.0	42.4	41.0	8.3	2.0	—	1.0	5.4
4 篠 山 町		355	160	139	18	7	3	6	22
		100.0	45.1	39.2	5.1	2.0	0.8	1.7	6.2
5 津 名 町		191	70	90	14	4	—	—	13
		100.0	36.6	47.1	7.3	2.1	—	—	6.8
6 神戸市中央区		248	35	137	41	18	—	10	7
		100.0	14.1	55.2	16.5	7.3	—	4.0	2.8
7 伊 丹 市		414	118	228	33	25	1	2	7
		100.0	28.5	55.1	8.0	6.0	0.2	0.5	1.7

表42 自治会が必要な理由

必要な理由 市・町	合計	1 親睦やま とりのため	2 生活を自衛 するため	3 行政連絡 のため	4 要求のため	5 当然のこと	6 なんとなく	7 その他	8 わからない	9 不明
合 計	1932 100.0	1298 67.2	941 48.7	823 42.6	283 14.6	390 20.2	33 1.7	19 1.0	25 1.3	195 10.1
1 豊 岡 市	305 100.0	238 78.0	150 49.2	142 46.6	48 15.7	71 23.3	1 0.3	3 1.0	2 0.7	20 6.6
2 滝 野 町	214 100.0	154 72.0	117 54.7	88 41.1	29 13.6	39 18.2	6 2.8	1 0.5	2 0.9	19 8.9
3 新 宮 町	205 100.0	138 67.3	72 35.1	94 45.9	33 16.1	55 26.8	2 1.0	1 0.5	2 1.0	20 9.8
4 篠 山 町	355 100.0	268 75.5	166 46.8	181 51.0	73 20.6	97 27.3	4 1.1	5 1.4	4 1.1	35 9.9
5 津 名 町	191 100.0	125 65.4	77 40.3	83 43.5	27 14.1	37 19.4	3 1.6	2 1.0	1 0.5	21 11.0
6 神戸市中央区	248 100.0	115 46.4	134 54.0	59 23.8	25 10.1	27 10.9	11 4.4	3 1.2	10 4.0	36 14.5
7 伊 丹 市	414 100.0	260 62.8	225 54.3	176 42.5	48 11.6	64 15.5	6 1.4	4 1.0	4 1.0	44 10.6

伊丹市（28.5％）と神戸市（14.1％）は格段に少ない。

しかしながら、「是非必要」と「あった方がよい」を加えると、神戸市（69.3％）をのぞき、すべて80％を越えている。したがって町内会・自治会はすべての地区において肯定されていることは明らかである。

次に必要な理由についてみると、「親睦・とりまとめ」が67.2％と最も多く、これについて「生活の自衛」のため（48.7％）、第3が「行政の連絡」（42.6％）となっている。

地域別にみると、神戸市だけが「親睦・とりま

とめ」が少ない。また「行政の連絡」も神戸市は少なくなっている。

〔5〕 地域の特性

これまでに示したデーターをもとにして総合的に検討し、地域の特性についてまとめてみよう。

（1） 近隣つき合い

1） 望ましいつき合い

「望ましいつき合い」について「心をうちわって親しくつき合いたい」という答えは、新宮町（36.6％）が1位で、2位は篠山町、3位は滝野

表43 近隣つき合いと地域活動への協力

市・町	つ き 合 い			計	地域活動への協力			計	合計
	望ましい つき合い (心をうちわ つてつき合)	具体的な つき合い (助け合)	つき合い の満足度 (大変満足)		引越時の あいさつ (1人で何か持 てて役員の紹 介)	寄付に (進んで 応じる)	労働奉仕 (進んで 協力)		
豊岡市	27.2 (4位)	45.9 (5位)	15.4 (6位)	88.5 (5位)	86.8 (2位)	87.2 (3位)	42.0 (3位)	216.0 (2位)	304.5 (5位)
滝野町	29.4 (3位)	50.9 (3位)	18.2 (1位)	98.5 (3位)	84.1 (5位)	87.0 (4位)	42.5 (1位)	213.6 (4位)	312.1 (3位)
新宮町	36.6 (1位)	57.1 (2位)	17.1 (4位)	110.8 (1位)	85.7 (3位)	87.3 (2位)	42.4 (2位)	215.4 (3位)	326.2 (1位)
篠山町	30.7 (2位)	60.8 (1位)	17.7 (2位)	109.2 (2位)	83.0 (6位)	87.0 (4位)	40.0 (4位)	210.0 (5位)	319.2 (2位)
津名町	25.7 (5位)	47.6 (4位)	17.3 (3位)	90.6 (4位)	88.0 (1位)	93.7 (1位)	38.7 (5位)	220.4 (1位)	311.0 (4位)
神戸市	11.7 (7位)	24.2 (7位)	7.7 (7位)	43.6 (7位)	71.9 (7位)	82.7 (7位)	22.2 (7位)	176.8 (7位)	200.4 (7位)
伊丹市	16.2 (6位)	32.1 (6位)	16.2 (5位)	64.5 (6位)	84.2 (4位)	83.4 (6位)	31.9 (6位)	199.5 (6位)	264.0 (6位)

町で、6位は伊丹市、7位は神戸市(11.7%)となっている。1位の新宮町(36.6%)は神戸市(11.7%)の3倍以上の値を示している。

これから明かなように、望ましいつき合いに対する回答として「心をうちわって親しいつき合い」は人口規模の小さい町において多く見られ、市や大都市においてはこのような親しいつき合いが少ない。

2) 具体的なつき合い

具体的なつき合いに対する回答として「親密につき合い助け合っている」が多いのは篠山町、新宮町、滝野町の順で、豊岡市5位、伊丹市6位、神戸7位と都市部では少ない。

ここでも人口規模の小さな町において親しいつき合いが多く、三つの市では少なくなっている。

3) つき合いの満足度

つき合いに対する満足度で「大変満足」と答えた人の割合の差はそれほど大きくない。そのなかで満足度がやや多いのはやはり「町」で、これよりやや少ないのは伊丹市と豊岡市で、神戸市の場合には特に少ない。

4) 地域的特性

近隣つき合いについて、三つの項目を手がかりにして検討して来たがこれを総括してみよう。

近隣のつき合いの点から見ると、親しいつき合いがみられるのは、新宮町、篠山町、滝野町である。

これらにくらべると津名町はやや少ない。豊岡市は津名町に近い値を示している。

伊丹市と神戸市においては親密なつき合いは格段に少ない。

(2) 地域生活での協力

1) 引越の際のあいさつ

引越した際のあいさつを「1人で何か持って廻った」人と「役員の紹介で廻った」を加えると各市町とも8割以上の人がこれを行っており、あまり大きな差はない。しかし神戸市だけかなり少なくなっている。

すなわち引越の際のあいさつはすべての市町で8割も行なわれている。ただ神戸市では例外的に71.9%にとどまっている。

2) 寄付に応じるか

地域で求められる寄付に応じるかについて、「進

んで応じる」と「まあ応じるだろう」を加えてみると、すべての市町において8割を越えており、大きな差はみられない。

その中でも津名町では93.7%と最も多く、他の町も87.0%を越えている。これに対して豊岡市86.6%、伊丹市83.4%、神戸市82.7%と市部ではやや少なくなっている。

3) 地域で労働奉仕を求められたら

地域で労働奉仕を求められたり「進んで協力」する人は、1位は滝野町(42.5%)、2位は新宮町(42.4%)、3位は豊岡市(42.0%)、4位は篠山町(40.0%)、5位津名町(38.7%)である。これに対して6位の伊丹は31.9%、7位の神戸市は22.2%と格段に少なく成っている。

4) 地域的特性

地域活動への協力についてみると、積極的な協力が多いいのは、津名町と豊岡市にみられる。

次に、これについているのが、新宮町、篠山町、滝野町である。この点は先の近隣つき合いとは逆に成っている。

第3の伊丹市と神戸市はここでも格段に少なく成っている。

(3) 地域的特性

1) 市町別

- ① 「新宮町」には親密なつき合いが多く、地域の活動にたいしても協力的である。
- ② 「篠山町」には親密なつき合いが多いが、地域活動への協力はそれ程高くない。
- ③ 「滝野町」ではつき合いの満足度が最も高く「親密なつき合い」も3位とやや高い。
- ④ 「津名町」では「親密なつき合い」は多くないが、「引越のあいさつ」と「地元の寄付」への協力の割合は最も多い。
- ⑤ 「豊岡市」で「親密なつき合い」は多くないが、地域活動への協力はやや多い。
- ⑥ 「伊丹市」では「親密なつき合い」も地域活動への協力も少ない。
- ⑦ 「神戸市」は「親しいつき合い」も「地域活動への協力」も最低であり、格段に少ない。

2) 総括

- ① 近隣つき合いの観点から、地域的特性についてみると、親密なつき合いが多くみられるのは、「新宮町」、「篠山町」、「滝野町」である。

「津名町」がこれについている。

これに対して豊岡市はこれらの町にくらべるといくらか少ない。

さらに伊丹市は豊岡市にくらべてもかなり少なくなっている。

神戸市は伊丹市とくらべても格段に少なく成っている。

- ② 地域活動への協力についてみると、津名町と豊岡市に多く、これについて新宮町、篠山町、滝野町である。伊丹市と神戸市は格段に少ない。

これらを概観すると、親密な近隣関係も地域活動への協力もともに町に多くみられ、市部ではこれがやや少なく成り、大都市神戸においては格段に少なく成っているといえよう。

(4) 組織への加入

1) 組織別

① 町内会・自治会

町内会・自治会は最高の加入率 (76.2%) を示しているが、津名町 (85.3%), 滝野町 (85.3%), 新宮町 (84.9%), 篠山町 (83.7%),

豊岡市 (83.6%) においてはことに高い加入率を示している。伊丹市はやや低く、73.7% であるか、神戸市は格段に低く38.3%である。

② 婦人会

婦人会は第2位の加入率 (43.6%) を示している。婦人会の加入率が最も高いのは新宮町 (78.0%) で、2位滝野町 (62.6%), 3位津名町 (47.6%), 4位篠山町 (47.0%) である。これに対して神戸市 (24.6%), 伊丹市では22.2%と格段に低く成っている。

③ スポーツ・文化・趣味の会

この組織には篠山町が1位で31.8%, 豊岡市 (30.5%), 津名町 (30.4%), 滝野町 (28.5%) の順と成っている。

これに対して神戸市は5位で26.2%, 新宮町 (24.9%) が6位、伊丹市は22.7%で最低である。

④ 子供会

子供会の加入率が最も高いのは豊岡市 (34.4%) で、2位は津名町 (31.4%), 3位は新宮町 (31.2%) である。これに対して

表44 住民組織への加入率と順位 (市・町別)

順加入 市・町 率	1 町内会 自治会 (76.2)	2 婦人会 (43.6)	3 消防団 (11.1)	4 子供会 (23.7)	5 農 協 漁 協 (21.4)	6 老人会 (21.2)	7 スポーツ・ 文化・趣味 (27.7)	8 宗教関係 (18.9)	9 政治関係 (15.8)	10 社会奉仕 の会 (8.7)	順の 合 位 計
豊岡市	255 (83.6) ⑤	137 (44.9) ⑤	53 (17.4) ②	104 (34.4) ①	76 (24.9) ⑤	60 (19.7) ⑤	93 (30.5) ②	63 (20.7) ③	48 (15.7) ⑤	24 (7.9) ⑤	(31)④
滝野町	183 (85.3) ①	134 (62.6) ②	24 (11.2) ⑤	53 (24.8) ⑤	57 (26.6) ④	51 (23.8) ④	61 (28.5) ④	20 (9.3) ⑦	22 (10.3) ⑥	23 (10.7) ②	(33)⑤
新宮町	174 (84.9) ③	160 (78.0) ①	42 (20.5) ①	64 (31.2) ③	88 (42.9) ①	66 (32.2) ①	51 (24.9) ⑥	51 (24.9) ①	45 (22.0) ②	22 (10.7) ②	(18)①
篠山町	297 (83.7) ④	167 (47.0) ④	56 (15.8) ③	89 (25.1) ④	118 (33.2) ②	110 (31.0) ②	113 (31.8) ①	88 (24.8) ②	66 (18.6) ③	40 (11.3) ①	(22)③
津名町	163 (85.3) ①	91 (47.6) ③	23 (12.0) ④	60 (31.4) ②	53 (27.7) ③	49 (25.7) ③	58 (30.4) ③	36 (18.8) ⑤	43 (22.5) ①	19 (9.9) ④	(21)②
神戸市	95 (38.3) ⑦	61 (24.6) ⑥	7 (2.8) ⑥	10 (4.0) ⑦	4 (1.6) ⑦	14 (5.6) ⑦	65 (26.2) ③	51 (20.6) ④	46 (18.5) ④	18 (7.3) ⑥	(47)⑥
伊丹市	305 (73.7) ⑥	92 (22.2) ⑦	9 (2.2) ⑦	78 (18.8) ⑥	18 (4.3) ⑥	60 (14.5) ⑥	94 (22.7) ⑦	56 (13.5) ⑥	33 (8.0) ⑦	23 (5.6) ⑦	(51)⑦

伊丹市 (18.8%) と神戸市 (4.0%) では極めて低い加入率となっている。

⑤ 農協・漁協・森林組合

農協の加入率は新宮町 (42.9%) が1位で、2位は篠山町 (33.2%)、3位は津名町である。豊岡市、伊丹市、神戸市では少ない。

⑥ 老人会

老人会の加入率は新宮町 (32.2%) が最も高く、2位は篠山町 (31.0%)、3位は津名町 (25.7%) である。豊岡市 (19.7%)、伊丹市 (14.5%)、神戸市 (5.6%) の市部では低い。

⑦ 宗教関係

宗教関係組織への加入は新宮町 (24.9%) が1位で、2位は篠山町 (24.8%)、3位は豊岡市 (20.7%) で、伊丹市 (13.5%) と滝野町 (9.7%) では低い。

⑧ 政治関係組織

政治関係の組織への加入は津名町 (22.5%) が1位で、2位は新宮町 (22.0%)、3位は篠山町 (18.6%) である。

これに対して滝野町 (10.3%) 伊丹市 (8.0%) では加入が少ない。

2) 市町別

① 「新宮町」は婦人会、農協、老人会、宗教関係は加入率が1位と高く、政治関係も2位、町内会、子供会は3位といずれも高い。

② 「津名町」では自治会と政治関係は1位、子供会は2位と高く、婦人会、スポーツ・文化・趣味、農協、老人会は3位であるので全体としてみると高い。

③ 「篠山町」はスポーツ・文化・趣味は1位、

農協、老人会と宗教関係は2位、政治関係は3位、自治会、婦人会、子供会は4位であるから、全体としてみると、比較的高い。

④ 「豊岡市」は子供会が1位で、スポーツ・文化・趣味は2位、宗教関係は3位で、町内会、婦人会、政治関係の会は5位である。

⑤ 「滝野町」は自治会は1位、婦人会は2位と高いが、スポーツ・文化・趣味の会、農協、老人会は4位、子供会は5位、政治関係は6位、宗教関係は7位である。

⑥ 「神戸市」の場合には、ほとんどの組織の加入率は最低に近いところにある。

⑦ 「伊丹市」もほとんどの組織の加入率は最低のところにある。

要するに「町」では加入率が高く、大都市の神戸市と伊丹市ではすべての組織の加入率が低いことがわかる。それに対して市でも豊岡市の場合は神戸市・伊丹市に比べるとやや高くなっている。

参 考 文 献

日本地誌研究所『日本地誌、14巻、京都府・兵庫県』
二宮書店 1973

兵庫のふるさと散歩編集委員会編『兵庫のふるさと散歩』1. 神戸・阪神・三田編 2. 東播磨編 3. 西播磨編 4. 但馬編 5. 丹波編 6. 淡路編 昭和53年
神戸新聞社『兵庫探検』近・現代編 昭和49年
兵庫県『21世紀への生活文化社会計画』「新しいふるさとづくり」昭和50年

付記 本稿は「21世紀創造協会」の支援による調査研究の一部である。前川往亮さんに大変お世話に成ったことを感謝したい。